

ふしぎな友だち

奄美市立芦花部小学校

三年 佐々木 健太

それは、すすむが三年生の夏休みにおこった出来事です。

すすむは、山の中の小さな小学校に通っています。三年生は、すすむ一人だけです。全体でも八人しかいません。ふだんは、近所に住む同じ学校の兄弟と遊んでいるのですが、その日は、町に出かけていまして、一人で出かけることにしました。

「じいちゃん、タナガとりに行って来るよ。」と元気よく言いました。

「気をつけて行ってこいよ。」
と言うへん事をせなかで聞きながら、川の方へ走っていききました。

すすむは、川遊びが大好きです。川に入ると気持ちがいいし、タナガやサイやかにをつかまえるのが、何よりも楽しかったからです。

「あれ。」
すすむは、思わず言いました。川には、先きやくがい

ました。すすむと同じぐらいの年の男の子でした。すすむは、

「おまえ、どこの子だ。」

と聞きましたが、その子はわらっているだけでへん事をしません。

「へんなやつだな。名前はなんていうんだ。どこの学校に行っているんだ。」

しかし、何を聞いてもやっぱりここにこしているだけです。

「おまえもタナガをとっているのか。」

そうたずねると、こくりとうなずきました。その子もっているバケツを見て、すすむは思わず、

「すげー。」

と声を上げました。バケツには、たくさんのタナガがいました。

「おまえが一人でとったのか。」

とたずねると、こくりとうなずきました。そしてまた、川をのぞきこんだと思ったら、ひよいとタナガをすくい上げました。

「おまえ名人だな。おれもまけてられないな。」と、すすむもタナガをいっしょにとり始めました。今日は、いつもより大りようです。

しばらくすると、おなががすいたので、家からもつ

て来たおにぎりを食べることにしました。

「おまえも一つ食べるよ。」

とおにぎりをさし出しました。男の子は、うれしそうにおにぎりをうけとると、あつという間に食べてしまいました。

「おまえ、食べるのも早いな。タナガとりはこれぐらいにして、おれと遊ばないか。」

と、すすむが言うとうなずいて、森の中へ入って行きました。すすむは、あわてておいかけに行きました。しばらく行くと広い原っぱに着きました。すすむは、山の中にこんな場所があったことにおどろきました。すすむが、

「おまえ、よくこんな場所知ってるな。」

と言うと、男の子は急にすすむを投げとばしました。男の子は、ケタケタと声を上げてわらいました。すすむは、

「やったな。」

と言いながら男の子に向かって行って、今度は投げかえました。二人は、何度もすもうをとりました。ふと、気がつくくと、夕方です。すすむが、

「もう、帰らなきゃな。」

と言うと男の子はうなずいて、来た道を走って、もといた川までつれていってくれました。すすむが、

「今日はすごく楽しかった。今度は、みんなで遊ぼう。」

と言うとまたこくりとうなずいて、自分のタナガをすすむにさし出しました。

「くれるのか、ありがとう。」

と、すすむが言うと、男の子はにこにこしながらまた森の中へ入って行きました。

家に着くと、おじいちゃんがげんかんの前でまっていた。

「ずいぶんおそかったな。」

と言うおじいちゃんに、今日会ったふしぎな男の子の話を聞かせると、おじいちゃんは、

「すすむも会ったのか。じいちゃんも、子どものころ会ったことがあるぞ。」

と言いました。

(そんなわけないだろ。)と、すすむは心の中で思いましたが、口には出しませんでした。

それから男の子に会うことは、二度とありませんでした。あのふしぎな男の子は、だれだったのでしょうか。

